

各関係機関・団体の長 殿（様）

鹿児島県病害虫防除所長

平成18年度技術情報第13号「トマト褐色輪紋病」について（送付）

このことについて、トマト褐色輪紋病に関する情報を取りまとめましたので送付します。

平成18年度 技術情報第13号

昨年一部のトマト産地で多発したトマト褐色輪紋病が、本年も発生が確認されました。多発したほ場では下葉から枯れ上がり、果実にも発病するなど被害が大きいため、防除対策を徹底するようお願いします。

1. 対象病害虫 トマト褐色輪紋病 *Corynespora cassiicola*(Berkeley et Curtis)Wei

2. 対象作物 トマト、ミニトマト

3. 発生状況及び情報の根拠等

- (1) 本病は平成13年にさつま町の一部ほ場で確認されていたが、その後の発生は極めて少なかった。葉かび抵抗性品種の普及に伴って発生が多くなり、平成18年2～3月には産地全体で発生し、収穫後期に多発した。
- (2) 本病は10～11月から発病がみられ、12～2月に一旦終息するが、3月以降気温の上昇とともに急激に発生程度が高くなる。栽培末期には下葉から激しく枯れ上がり、果実にも発病し被害が大きくなる。
- (3) 昨年発生したほ場では、平成18年作トマトでも11月から発生が認められたが、現在のところ発生程度は低く抑えられている。
- (4) 2月中下旬に主要なトマト産地を調査した結果、大口市のミニトマトでも発生が確認された。
- (5) 気温の上昇に伴って急速に病勢が進展する恐れがあり、発生が確認されていない他の地域でも発生する恐れがあるので注意が必要である。

表 トマト褐色輪紋病の発生状況(平成19年2月16～20日調査)

市町名	作物	調査ほ場数	発生ほ場数(%)	発病葉率(%)
出水市	ミニトマト	4	0 (0)	-
大口市1)	トマト	43	0 -	-
大口市2)	ミニトマト	2	1 (50)	(15)
さつま町	トマト	19	4 (21)	(1～4)
霧島市	トマト	4	0 -	-

1) 大口市は農業改良普及センターによる調査。

2) さつま町は一部農業改良普及センターによる調査。11月頃から発生が多く、特に早植えたほ場では大半のほ場で発生していたが、その後薬剤と摘葉による防除で現在の状況に抑えている。

#### 4 . 防除上注意すべき事項

- ( 1 ) 葉に輪紋状の斑点の病害が認められた場合は，早めに取り除いてハウス外に持ち出し処分する。
- ( 2 ) ハウス内が多湿にならないよう通風換気に努める。
- ( 3 ) 本病に対して登録薬剤はないが，室内試験で以下の薬剤の効果が確認されており，灰色かび病や葉かび病等との防除を兼ねて発生初期から散布する。

作物名	薬剤名
トマト	ジャストミート顆粒水和剤，ダイマジン水和剤，ゲッター水和剤，セイビアーフロアブル，ルビゲン水和剤
ミニトマト	ゲッター水和剤

### <参考> 被害と発生の特徴等

- (1) 本病は主に葉に発生するが、茎、果実にも発生する。初め葉では黄色の小斑点を生じ、しだいに拡大して周囲が黄色の不規則な褐色輪紋状の斑点になる(写真1)。
- (2) 本菌は糸状菌の一種で不完全菌に属し、病斑上に分生子を形成する(写真2)。
- (3) 分生子は病斑上に生じた淡褐色の分生子柄上に形成され、単生または鎖生し、形状は変異が大きいが、褐色で1~17の横隔壁を有し、大きさは $39 \sim 254 \times 6 \sim 20 \mu\text{m}$ である(写真3)。生育適温は30 である。
- (4) 病原菌は被害葉等とともに土壤中に残るか、農業用資材等に付着して越冬し、伝染源となる。



【写真1】

〔葉では最初黄色の小斑点を生じ、しだいに拡大して周囲が黄色の不規則な褐色輪紋状の斑点になる。〕



【写真2】

〔葉裏の病斑上に群生した分生子ルーペ等で確認できる。〕



【写真3】

〔トマト褐色輪紋病の分生子形状は変異が大きいが、褐色で1~17の横隔壁を有する。〕